

C.L. information

Vol.48 2015 年 7 月

特 集

- ◆ 蚊が媒介する感染症
- ◆ 害虫紹介（ナメクジ類）
- ◆ 食中毒情報



株式会社コントロール・ラボ

蚊が媒介する感染症

夏は海や山などへ外出する機会が増えますが、その際にどうしても気になるのが蚊です。蚊は吸血害虫としてだけでなく、感染症を媒介する恐れもある害虫です。昨年の夏に日本でデング熱が流行したことはまだ記憶に新しいところです。今回の C.L.information では、そのような蚊が媒介する主な感染症、蚊の生態と対策についてご紹介させていただきます。

蚊が媒介する感染症

■ デング熱 【4 類感染症】

東南アジア、中南米、南アジアなどの熱帯や亜熱帯地域が主な流行地でしたが、昨年 8 月に国内で渡航履歴のない人から感染報告がありました。昨年 8～10 月の感染患者は全国で 160 人程で、この内 8 割のケースは代々木公園周辺で感染したとみられています。

主な症状：発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛など初期症状は風邪やインフルエンザと非常に似ています。発症後 3～4 日で全身にかゆみを伴う発疹が出現することが特徴です。

媒介する蚊：ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ

■ 日本脳炎 【4 類感染症】

アジアを中心に分布している日本脳炎ウイルスによる感染症です。ヒトからヒトへの感染はなく、ブタの体内で一旦ウイルスが増え、血液中に出てきたウイルスを蚊が吸血し、その後ヒトを刺した時に感染が成立します。

主な症状：38～40℃の高い発熱・頭痛・嘔吐・めまいなどが起こります。その後、手足の震えや思ったように手足を動かさないなどの神経症状や麻痺症状が現れることがあります。

媒介する蚊：コガタアカイエカ

■ マラリア 【4 類感染症】

アフリカ、アジア、中南米など世界 100 ヶ国以上に分布しています。病原体は原虫で、人に感染するものは熱帯熱・三日熱・四日熱・卵形の 4 種類とされています。

主な症状：感染後 10 日程して 38℃以上の発熱や頭痛、筋肉痛、吐き気、倦怠感などインフルエンザに似た症状がみられます。熱帯熱マラリアは、腎臓や脳の障害を併発し、重症化することもあります。

媒介する蚊：ハマダラカ

■ ウエストナイル熱 【4 類感染症】

アフリカ、ヨーロッパ、アジアなど広い地域で確認されています。通常はウエストナイルウイルスに感染した鳥類を蚊が吸血し、その蚊がヒトを吸血した際に感染する恐れがあります。

主な症状：2～6 日の潜伏期の後、39℃以上の高い発熱や頭痛、筋肉痛が現れ、胸や背に発疹が出ることもあります。ウイルスに感染しても 8 割程度の人には、症状が出ないと言われています。

媒介する蚊：イエカ属・ヤブカ属



デング熱での発疹
(国立感染症研究所)

蚊の生態

種類	生態		写真
ヒトスジシマカ	特徴	体長約 4.5mm で、胸部の背面に 1 本の白い縦線があります。	
	生活	屋外に多く生息し、日中、特に朝夕の時間帯に活動します。移動範囲は狭く、ヒトや動物が来ると近寄って吸血します。	
	発生時期	3～4 月頃に幼虫が出現し、10 月頃まで活動をします。卵の状態越冬します。	
アカイエカ	特徴	体長は約 5.5mm で、体色は茶褐色、腹部の背面に黄色の横帯があります。	
	生活	日没から明け方までの主に深夜の時間帯に活発に活動します。吸血性が強く、家屋内に進入し、鳥類やヒトを始めとした哺乳類などを好んで吸血するのが特徴です。	
	発生時期	6 月～9 月頃に多く発生します。成虫の状態緑の下などで越冬しますが、冬の間は吸血することはありません。	
チカイエカ	特徴	体長は約 5.5mm で、見た目はアカイエカとほぼ同じです。	
	生活	夜間に活動を始めます。民家に侵入することもあります。主に浄化槽などの閉鎖的な場所に生息しているため、地下街やオフィスが多い都市部で被害が多く見られます。	
	発生時期	春と秋に比較的多く発生しますが、1 年を通して活動が見られ、特に冬の間でも気温が高ければ吸血します。	

対策

- ①蚊の対策で最も重要なのは、蚊の幼虫(ボウフラ)の発生源である下記のような溜まり水を無くすることです。
- また、浄化槽などで成虫が発生した場合は、吊り下げ式の殺虫プレートの設置が効果的です。
- ②成虫に刺されないためには、皮膚を露出しないようにし、露出する部分には虫よけスプレーをかけておきます。

身近な蚊の発生源（溜まり水）

<放置された空き缶> 	<雨水枡> 	<流れのない側溝> 	<バケツ・空いた植木鉢> 
---	--	---	---

古タイヤ、植木鉢やプランターの水受け、プラスチック容器、ビニールシートの窪み、廃棄された機械の中なども発生源になることがあるので注意してください。

蚊の予防駆除に関して、お気軽にご相談ください。

害虫紹介

ナメクジ類

殻が退化した巻貝の一種であるナメクジ類は、国内では約 10 種が生息しています。屋内に侵入し、その外見から不快害虫となるだけでなく、寄生虫の中間宿主であり、衛生害虫としても注意が必要です。また、作物や花を食害する、農業やガーデニングの害虫としても知られています。

生態

多湿環境を好み、雨が降った後などに盛んに活動します。人家周辺や落ち葉の中等に生息し、腐葉土や植物質を餌としています。都市近郊に広く生息し、屋内で問題となることが多い種類として、中型のチャコウラナメクジが挙げられます。



図 ナメクジ

Meghimatium bilineatum

(公益社団法人日本ペストコントロール協会)

被害

排水溝等から屋内に侵入し、這いずった跡に粘液を残して不衛生な印象を与えます。また、生野菜に付着して、サラダに異物混入した例も報告されています。日本での発症例は多くはありませんが、広東住血線虫という寄生虫の中間宿主となっていることがあるため、ナメクジが付着した食品は生食しないことが推奨されます。

対策

厨房や工場内への主な侵入経路は、外に通じた排水溝や配管が多いため、蓋やネットで封鎖し、侵入を防ぎます。また、生野菜はよく洗浄して使用することが重要です。ナメクジには殺虫剤の効果が低いため、市販のナメクジ用の食毒剤や忌避剤を使用します。ビールの臭気に強く誘引されるため、ビールに駆除剤を混ぜたトラップの使用も効果的です。

食中毒情報

気温の上昇に伴い、細菌性食中毒の発生件数が増加してきています（5月：7件→6月：8件→7月：14件）。その中でも、今月の原因物質 1 位はカンピロバクターでした。カンピロバクターは、鶏などの家禽や牛や豚などの家畜で高く保有されており、100 個程度の比較的少ない菌数で食中毒を発症する危険性のある細菌です。また、感染後数週間で手足の麻痺や呼吸困難などを起こすギランバレー症候群を発症することもあります。カンピロバクター食中毒の予防には、「十分な加熱」と「二次汚染防止」の 2 点が必須です。鶏肉を調理しているのと同じ厨房で調理したサラダが原因で、カンピロバクター食中毒を発症する事例なども多々あるため、特に二次汚染に注意が必要です。

全国食中毒発生状況 (6/15～7/14 新聞発表分)

原因物質	事例	感染者数
カンピロバクター	9	94
ノロウイルス	7	252
ウエルシュ菌	3	164
黄色ブドウ球菌	2	43
不明・その他	6	154

株式会社コントロールラボ

本社 〒651-1211 神戸市北区小倉台7-1-7
 阪神事業部 〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町2-4-15
 東京営業所 〒194-0004 東京都町田市鶴間424-1-402
 福岡営業所 〒816-0921 福岡県大野城市仲畑1-6-15-A棟3
 フリーダイヤル

☎0120-540-643

URL <http://controllabo.co.jp>

TEL: 078-582-3575 FAX: 078-582-3576
 TEL: 078-858-6801 FAX: 078-858-6802
 TEL: 042-799-5270 FAX: 042-850-6456
 TEL: 092-575-0630 FAX: 092-586-6321


 株式会社コントロールラボ


 エムテック衛生検査所